

第27回常民大学合同研究会 研究報告

柳田国男没後50年と「生活者の学び」の系譜

—常民大学と後藤民俗思想史の未来を考える—

2012.10.13

小田 富英

1. はじめに—「柳田国男没後50年」を想う—

「賞味期限は切れたのか」「柳田国男いま何処」「柳田は古典」「柳田は百科全書」等
「現代の課題解決の処方箋を探す読み方」から、その時代時代ごとに柳田は何を訴え、
「何が出来て何が出来なかったのかを検証する読み方」へ

2. 柳田国男における「生活者の学び」とは

ア 柳田の言葉では「民間布衣の学問」

資料①

「民間布衣」の位相（立場・時期・対アカデミズム）+「定本索引項目」に無いことの謎

イ 「女性生活史」（昭和16年）の思惑

資料②

ウ 「野の学び」の挑戦

資料③

※柳田学の初志はまさに「生活者の学び」

3. 後藤総一郎の「生活者の学び」の足跡

ア 「寺小屋外語教室」の位置づけ

資料④

イ 常民大学 初発の動機

資料⑤

ウ 「生活者の学び」の系譜の相対化

丸山真男と「三島庶民大学」

資料⑥

エ 後藤民俗思想史の挑戦

※柳田学と政治思想史を合体させ、「生活者の学び」を発酵した「寺小屋」という〈場〉。

さらに「地域を拓く」という視点の付加。そしてそこに居合わせたことの私の幸せ。

※不毛な歴史認識論争を超えて、「生活者」としての関係構築。

4. 柳田没後50年に改めて「生活者の学び」の有効性を問う

ア 「民俗学」と「現代世相」との接点から

イ 自覚的に生きることの一類型として

・常民大学の位置の再確認

「上田自由大学」、「山脈の会」、野本三吉の「生活者」など

ウ 後藤民俗思想史の継承として

・それぞれの場から

エ 柳田国男を「トイ」 「マツジマイ」に閉じ込めないために